

2006年5月22日

報道関係 各位

アボット ジャパン株式会社
マルホ株式会社
日東電工株式会社

**世界で初めての貼付型の長時間作用性気管支拡張剤
「ホクナリン®テープ」(ツロブテロール貼付剤)のテープ表面に
「使用の安全」確保を目的として「ホクナリン」と表記**

この度、アボット ジャパン株式会社(医薬品事業部本社:大阪府、代表取締役社長:ザヒール・ラフジ)と日東電工株式会社(本社:大阪府、取締役社長:竹本正道)が共同開発し、アボット ジャパン株式会社とマルホ株式会社(本社:大阪府、代表取締役社長:高木幸一)が共同販売している、気管支喘息およびCOPD(Chronic Obstructive Pulmonary Disease:慢性閉塞性肺疾患)治療のための貼付型の長時間作用性 β_2 刺激薬「ホクナリン®テープ」(一般名:ツロブテロール)のテープ表面に、使用の際の安全確保を目的として「ホクナリン」と表記いたしましたのでご連絡申し上げます。(写真参照)

現在、日本では、全身性経皮吸収剤として、ホクナリン®テープをはじめ、循環器領域、婦人科領域等、異なる薬効分野で5薬剤30種類近くのテープ剤が使用されていますが、テープの表面に製品名の表示がない場合、患者さんや介護者が何の薬剤を貼付したのか、もしくは、医療従事者が、貼付中の製品が区別できない、患者さんがどのような疾患にかかっているのかわからないなどの問題がありました。

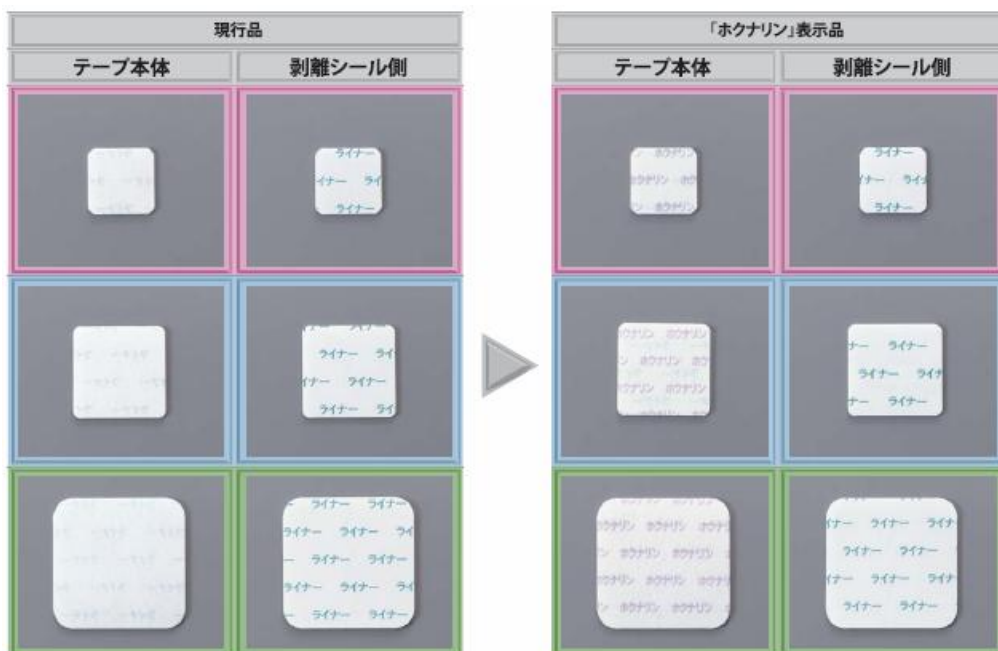
そこで、この度アボット ジャパン株式会社、マルホ株式会社および日東電工株式会社は、使用しているテープ剤が何の薬剤なのか、どなたが見てもわかるように、ホクナリン®テープ表面に「ホクナリン」と表記することといたしました。これは、患者さん、介護者および医療従事者への「使用の安全」(下記項目)の確保、ひいては医療事故防止につながります。

《患者さん、介護者および医療従事者へのメリット》

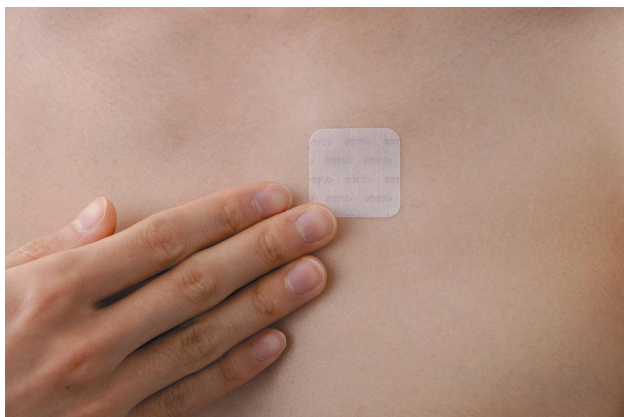
- ①ホクナリン®テープを貼付する際に、何の薬剤か確認できる。
- ②テープを貼る際に薬剤の表裏がわかりやすい。
- ③救急の患者さんで、意思疎通が困難な場合でも、医療従事者が、何の薬剤を貼付しているのかわかる。

アボット ジャパン株式会社、マルホ株式会社および日東電工株式会社では、今回の改良がホクナリン®テープを使用されている患者さんや、介護者および医療従事者のお役に立つことを期待しておりますと同時に、今後とも患者さんや医療従事者の声に耳を傾け、お役に立てる改良を続けていきたいと考えております。

製品写真



貼付時写真



「ホクナリン」表示に伴う患者さんへのご案内方法

- ① 医師や薬剤師等の医療従事者から患者さんへの「ホクナリン」表示変更の案内として、「お知らせシート」を製品に添付いたします。
- ② 医療従事者から患者さんへの説明用の「リーフレット」を薬剤師や医師等に配布いたします。
- ③ 医療従事者から患者さんへの「ホクナリン®テープ使用の貼り方指導箋」のホクナリン®テープの絵図を「ホクナリン」と印字したものに变更いたします。

この件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

○アボット ジャパン株式会社

医薬品事業部

広報部

TEL:06-7221-7356

○マルホ株式会社

経営企画部

秘書・広報グループ

TEL:06-6371-8831

○日東電工株式会社

ブランド戦略室

広報部

TEL:06-6452-2215

なお、このプレスリリースは、本町記者会、厚生労働記者会、厚生日比谷クラブ、大阪化学工業記者クラブ、道修町薬業記者クラブ、大阪機械記者クラブにも配付いたしております。重複のむきございましたら、予めご容赦の程お願い申し上げます。

<参考資料>

○「ホクナリン®テープ」について

ホクナリン®テープとは、アボット ジャパン(株)と日東電工(株)により開発された世界で初めての貼付型の長時間作用性 β_2 刺激薬であり、1998 年 12 月に発売されました。有効成分はツロブテロールで、本製剤の作用持続時間は 24 時間です。承認の効能・効果は「気管支喘息、急性気管支炎、慢性気管支炎、肺気腫の気道閉塞性障害に基づく呼吸困難など諸症状の緩解」で、COPD(慢性閉塞性肺疾患)および喘息ガイドラインに、長時間作用性気管支拡張剤として収載されています。また、ホクナリン®テープは、1998 年度科学技術庁長官賞、2001 年度創薬科学賞を受賞しています。

○「アボット社」について

米国イリノイ州シカゴに本拠を置くアボットは、広範囲のヘルスケアに基盤を置く世界的規模の会社であり、グループ総従業員数 60,000 人を擁し、世界 130 ヶ国で営業活動を行っております。その事業内容は新薬の研究、開発に加え、医療用医薬品、栄養剤、医療用機械器具、医療用計測器、診断薬の分野に於ける研究、開発、製造、マーケティング、そして販売と多岐にわたっています。

日本国内では、従業員数 1,900 人、医療用医薬品、栄養剤、医療用機械器具、医療用計測器、診断薬の製造及び開発、ならびに販売とマーケティングを行っており、東京、大阪、福井、千葉に拠点を置いています。

○「マルホ株式会社」について

マルホは、「人類の健康に対して質の高い貢献を行うこと」を企業使命とする、中堅医療用医薬品メーカーです。大阪に本社を構え、医療用医薬品の研究・開発・製造・販売を行っています。従業員は 800 人を超え、営業網は全国をカバーしており、京都に研究開発、彦根に生産の拠点を置いています。

○「日東電工株式会社」について

日東電工は世界市場に様々な高機能製品を供給し、幅広い産業活動を支えています。固有の高分子合成・粘着加工技術をベースに各種の先端技術を複合化することにより、液晶用光学フィルムや自動車関連材料及び経皮吸収型テープ製剤など優れた機能を持つ製品を数多く生み出しています。同社は本社を大阪市に置き、グループ従業員で約 27,000 人、また 100 社を超えるグループ会社を有し、世界市場に製品を提供しています。